

編集後記

＜武藤徹一郎＞

「胃と腸」の「腸」文字を大きくすることによって、腸病変への取り組みを従前に増して強めることにした編集方針に沿って、“腸疾患の特集シリーズ”を企画中であるが、そのシリーズ第1号をお届けする。

最初の主題は腸結核が選ばれた。腸結核は過去の疾患と思いきや、Crohn病などの炎症性疾患が注目されはじめるに従って、決して稀な疾患ではないことが認識されるようになった。岡先生が巻頭対談の中で、いみじくも指摘されているように、“いまの若い人々は結核を知らない”。この短い対談の中に、岡先生の数々の貴重な経験と観察が語られていて、まことに教えられるところが多く、温故知新ということをつくづく感じさせられた。先人の研究報告をもう一度熟読玩味しなければと思う。

さて、主題論文5編はどれをとっても超一級品ばかりである。腸結核診断に際してのX線検査理論（白壁）、小腸結核のX線診断（八尾）を熟読すれば、明日からの検査診断に役立つところ大であろう。腸結核の病理（渡辺）、全割標本とX線像の対比（政）の両論文からは腸結核病変の多様性が理解されると思われる。症例はいずれも珍しく貴重な例ばかりである。最近、腸に関する症例の内容が充実してきたことは喜ばしい。

腸疾患シリーズは腸結核特集が来月もう一度組まれた後、Crohn病特集が続く、さらに炎症性疾患、腫瘍性疾患などに関する特集が続く予定である。順調に進んでも、一通りの特集が終るのには2～3年を要するであろう。乞御期待と申し上げるとともに、一層の御愛顧と御鞭撻をお願いしたい。

＜編集＞ 早期胃癌研究会